

潮 騷

2020.1.25

今年の抱負を漢字一文字に込めてください、と企業、団体の面々にお願ひした◆「猛」と答えたのはダイヤモンド電機の小野有理社長(45)。経営難だった同業他社をグループ化し、大阪ものづくり企業再建に余念が無い。まさに猛進中だが、十二支先頭の「子」が、猛の字の中にあるところがミソだ◆大阪工業大の益山新樹学長(62)は「化」を挙げた。いわく、実直な技術者育成の大学から化け、人間性豊かな人材を育てる。つまり、文理横断型の教育に取り組み、大学間競争を勝ち抜く考えだ。人口減少に加え、超低金利の時代にあつて大阪シティ信用金庫の河村正雄会長(72)は、地域密着を深化させるため「深」を示した◆東京五輪開会式の7月24日は、天神祭の宵宮祭でもある。警備員の確保は懸案だが、伝統を守るため従来通り執り行つ、と大阪天満宮の寺井種治宮司(56)。選んだ漢字は「輝」。氏子から生き生きと輝いて見えるよう、自身も含めて神社職員は研さんを積む意向だ◆51歳の私も漢字に込めた。「朝」。字の中の二つの「十」を横に並べると草かんむりになる。草と草の間から「日」は昇り、有明の「月」が背後に浮かぶ。漢字を創つた3千年前の先人たちは前向きだったはずだ。朝の来ない夜はない、と。

(深)